

# 1. 評価報告概要表

作成日 平成21年1月29日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4075700163
法人名	有限会社 あゆみ
事業所名	グループホーム あゆみ
所在地 (電話番号)	福岡県嘉穂郡桂川町大字土師 1967 - 1 (電話) 0948 - 65 - 5480

評価機関名	株式会社 アトル		
所在地	福岡市博多区半道橋 2 - 2 - 51		
訪問調査日	平成21年1月14日	評価確定日	平成21年2月20日

【情報提供票より】(20年12月27日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 6月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11人	常勤 5人, 非常勤 6人, 常勤換算	8.28人

### (2) 建物概要

建物形態	単独型	新築
建物構造	木造平屋 造り	
	1 階建ての	1 階 ~ 1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	26,400 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	100,000円	有りの場合 償却の有無	5年	
食材料費	朝食	200 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要 (12月27日現在)

利用者人数	9 名	男性	4 名	女性	5 名
要介護 1	6 名	要介護 2	2 名		
要介護 3	0 名	要介護 4	0 名		
要介護 5	1 名	要支援 2	0 名		
年齢	平均 87 歳	最低	80 歳	最高	95 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	青柳医院 ・ 飯塚病院 ・ 大塚歯科
---------	--------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人代表者の家族の介護の経験から高齢者介護の役に立ちたいとの思いでホームを立ち上げた。ホームの理念である「明るく温かい笑顔でゆっく〜楽しく一緒に、みんなで大きな家族を目指します」は開設時に全員で作上げたもので、日々の生活の中で実践している。ホームは木造で周りの民家と溶け込んでおり、近隣との付き合いも頻繁にあり極普通の家庭のようである。その中で暮らす利用者は、それぞれが特技やできる力を活かして楽しく生活しており、職員は寄り添い見守っている。まさに理念を形にした暮らしを実践している。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連項目 : 外部4)</p> <p>前回の評価では、数項目の改善課題があったが、ミーティングや運営推進会議にて報告話し合いを行っている。管理者、職員等できる項目から改善に向け取り組みを行っている為、更なる取り組みを実施しホームの質の向上に努めていただきたい。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目 : 外部4)</p> <p>管理者、職員が項目毎に意見を出し合い話し合った。また、項目を日々の業務の中で確認し気付くことができ、課題に対し現在取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目 : 外部4 , 5 , 6)</p> <p>2ヶ月に1回開催し多方面の出席者より情報や意見を頂きホームの運営やサービスの質の向上に役立っている。また、家族より質問や要望等もあり、その場で話し合い家族との交流の場にもなっている。出席者は、家族代表、区長、民生委員、地域包括支援センター職員、桂川町役場課長補佐、社会福祉協議会担当者、管理者、職員等である。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法 運営への反映 (関連項目 : 外部8 , 9)</p> <p>家族が面会に訪問の際には管理者、職員が意見や要望を聴き取りミーティングで話し合い解決に向け取り組んでいる。家族会は開いていないが、ホームの夏祭りに家族に参加していただき話しやすい雰囲気を作り個々の意見を聴き取り、ホーム全体で話し合いを行っている。公的機関の窓口の掲示も目に付きやすい場所に掲示している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との関連 (関連項目 : 外部3)</p> <p>町内会に入会し公民館掃除やその他の清掃活動に利用者と共に参加している。また、地域でのコスモスの種まきや高齢者向け音楽療法にも参加し地域に利用者と共に向くことでホームのあり方を地域の方々に理解してもらい、地域との交流が円滑に出来ている。ホームの行事である夏祭りには近隣の方々が参加されホームの様子を実際に見ていただき更に理解を深めていただいている。</p>

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者、職員全員で話し合い作り上げた理念「明るく温かい笑顔でゆっくと楽しく一緒にみんなで大きな家族を目指します」この理念の中の大きな家族は地域全体を意味するものと捉えている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の申し送りや勉強会等で管理者が理念について説明し、職員は理念に沿ったケアがなされているか日々確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入会し、公民館掃除やその他の清掃活動、コスモスの種蒔き等地域の活動、行事に利用者と共に参加し、地域との交流を図っている。また、ホームの夏祭りに地域の方々を招き参加してもらうことでホームを理解してもらう機会を作っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価について管理者が職員に説明し、ミーティングや勉強会にて一緒に話し合い、管理者がまとめた。改善項目に於いてもミーティングにて話し合いを行い改善に向けて取り組んでいる。		改善項目を出来る項目から取り組んでいるが、計画等立てていない。未改善項目に関して計画的に取り組んでいくことが望まれる。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的に開催している。出席者は家族代表者、区長、民生委員、役場課長補佐、地域包括支援センター職員、社会福祉協議会担当者、管理者、職員等で、家族からの意見の聴き取りを行い改善に向け話し合っている。ホームの現状や取り組み等の報告や民生委員から地域との関わりを深める為の提案を頂き検討し、よりよいホーム作りに取り組んでいる。		

グループホーム あゆみ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	役場や広域連合に必要なに応じて出向いたり電話にて相談したりし情報交換を行っている。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度利用を希望する家族がいたが、事務長が対応している。制度の研修等実施しておらず全職員が周知しているわけではない。また、パンフレットの準備も不十分である。		研修の機会を作り職員が周知理解し必要な人へ誰でもが説明できるよう取り組み、ホームの質の向上へ繋げていただきたい。また、パンフレット等を準備すると説明等も行いやすいと思われる。
4.理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	月に1回利用料の請求書に添えて利用者個々の暮らしぶりの報告書を郵送している。また、利用料支払い時や面会時に個々の報告を行っている。金銭管理に関しては、領収書を貼付し請求書に同封している。職員の異動があった場合は面会時に報告している。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に家族からの意見、要望を聴き取り職員会議にて話し合い対応をしている。運営推進会議やホームの夏祭りに参加していただき意見や要望を表出する機会を作っている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が要望等表出しやすい環境作りを行っており、離職者は少ない。離職があった場合は、全職員が全利用者の状態を把握している為、誰でもが新職員に引継ぎを行える状況である。利用者への影響を考慮し退職の場合は事後報告とし、新職員はその都度紹介している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
11	19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>採用に関しては性別や年齢等条件は無い。試用期間は設けているがその間にホームに馴染んでケアが出来るよう配慮している。採用後は、趣味や特技を活かし日々の業務や行事を盛り上げ、職員其々が持ち味を出している。</p>		
12	20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>日頃の生活の中で、言葉遣いや対応に関しては、管理者が職員に指導、助言することはあるが、勉強会や研修参加の機会は殆ど無い。</p>		<p>人権やそれに関連した講習会等へ参加することで、利用者への対応等に於いて気付きがあるのではないだろうか。積極的に研修へ参加したり勉強会を開いたりし、ホームの更なる質の向上へ繋げて頂く事を期待する。</p>
13	21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>月に1回勉強会を開き必要に応じ研修の機会は作っているが、年間計画等は立てられていない。資格取得の為に研修や外部研修の案内を行い研修後の報告会等を行っている。</p>		<p>ホームで何が必要かホーム全体で話し合い計画を立ててはどうか。人権や成年後見制度等を含め学ぶ機会を作り職員の質の向上に繋げていただきたい。また、議事録の内容も充実させ勉強会の内容が分かるようにすると職員が確認しやすいのではないだろうか。</p>
14	22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>全国グループホーム協議会には加入しているが、県の協議会には加入していない。近隣のホームとの交流は管理者同士はあるが職員の交流はあまり無い。</p>		<p>近隣のホームとの交流かを職員も含め広げることで、情報交換の場を作ることが出来、ネットワーク作りホーム同士の相乗効果にて更なるホームの質の向上および地域全体の介護力の向上に繋がるのではないだろうか。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、家族の見学や体験入居してもらったり入院先にも面会に行き、出来る限り本人の状態や生活環境を把握し、不安の無いようホームに馴染んでいただけるよう取り組んでいる。		
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり支えあう関係を築いている	利用者から昔の生活の様子を聴き生活の知恵を教えてもらうことがある。人生の先輩であることを念頭に置き対応している。利用者から、職員の体調等気遣ってもらいもあり家族のように暮らしている。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1.一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の生活歴から現在の状態までの情報を収集し、本人、家族との会話からどのように暮らしたいか聴き取りセンター方式のアセスメント表に記入し全職員が把握している。また、状態変化が見られた場合等も随時記入しその時々意向を把握するよう取り組んでいる。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の意向や要望を元にカンファレンスにて全職員が意見を出し合い、計画作成者がまとめている。担当者会議を開き計画書を作成しているが、家族や主事医の意見等が担当者会議の記録に記載されていない。		センター方式を用い本人の意向を把握しているが、計画書に本人の言葉での表現ではなく、抽象的になっている為具体的な表現や本人の思いをそのまま表してはどうか。担当者会議の記録にも本人と関係のある人の意見を記録することが望まれる。
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアチェック表にて毎日目標を確認している。モニタリングはカンファレンスにて3ヶ月に1回実施している。また、状態の変化に伴う見直しは計画作成者と職員が話し合い計画を変更している。家族へはその都度確認し報告をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3.多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の希望に沿い可能な限り個別対応を出来るよう支援を行っている。本人の行きつけの理美容室への同行や個別の受診等支援している。		
<b>4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望にてかかりつけ医は其々であり受診の付き添い等行っている。看護師は週2回勤務に着き利用者の状態の把握を行い主治医と連絡を取り、状態が変わったときは主治医が往診にて診療している。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に関する指針に基づき家族へ説明し、家族の確認と同意書を交わしている。本人の状態の変化に合わせ、家族、主治医と話し合いを行い方針を確認共有している。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1.その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者との会話や対応には個人の尊厳を守り配慮している。個人記録は事務所の棚に保管しているが個人名が見えやすく、事務所に鍵は掛からない。利用者の写真掲示等の同意書は交わしていない。		個人記録が目につく場所にある為目隠しをし、個人情報等の取り扱いには同意書を交わすことで個人情報の保護となるのではないだろうか。
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の過ごし方を利用者で話し確認し、希望に沿い利用者毎に生活できるよう支援している。睡眠時間や外出時間等個別に対応することが多い。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立や食べたいものの希望をとり、買い物や調理を利用者と職員と一緒にしている。配膳や後片付けも出来る力を活かしている。利用者と職員が同じものを同じ時間に摂り楽しい会話をし、楽しく和やかな時間を作っている。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や時間の決まり等なく自由に入浴できる。入浴を嫌がる利用者には、さげなく声をかけ気持ちよく入浴してもらうよう配慮している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の後片付けや庭の掃除、手すりの拭き掃除等利用者の出来る力を活かし役割が自然とできている。また、本人の特技を活かし花を植えたり生花をしたりと楽しみごとも多い。また、月に1回はドライブを計画し季節感を味わえる場所へ外出している。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な散歩やスーパーマーケットへの買い物等利用者の希望や要望にて支援している。また、出かけたがらない利用者へは庭で外気浴等を促し気分転換を図れるよう支援している。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は開錠し誰でも自由に出入りできるようにしている。外へ出た利用者へは傍に付いて見守りを行い、行動範囲等を確認している。職員は夜間を含め1日に8回利用者の在籍確認を行い、危険防止に努めている。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう動きかけている	今年度は消火訓練のみ実施している。マニュアルに沿った避難場所や避難方法等確認しているが夜間想定での避難訓練等実施が成されていない。また、災害に備えた備蓄品等の備えが無い。近隣の方への協力依頼はしている。		マニュアルによる確認はしているが、火事を含め災害はいつ起こるか分からない為、日頃より避難訓練を行い利用者や家族が安心できるよう取り組んでいただきたい。また、消防署や地域との連携を深める為、運営推進会議等を活用しては如何だろうか。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員が献立を立て特にカロリー計算等はしていないがバランスを考慮した献立を立てている。利用者全員の食事の記録と必要に応じ水分のチェックを行っている。		バランスを考え野菜を多く取り入れた献立ではあるが、今後利用者に食事の調整が必要になることもありうると思われる。また、利用者の摂取量の確認の為に専門的に栄養士等に確認してもらうことを希望する。
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングには季節の花が飾られ、家庭的な雰囲気があり、リビングの窓も広く明るい日差しを浴びることができる。ホーム内は比較的静かで不必要な物音等無く利用者がのんびりとゆっくり過ごすことが出来ている。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の居室は本人の馴染みの物や思いでのある道具を配置し入所前からの生活が継続できるよう配慮している。また、居室の出入口にはそれぞれの暖簾が掛けられ本人の部屋が分かる工夫がされている。		